

国際学会発表海外派遣報告書

理学研究科 高分子科学専攻 佐藤研究室 M2 森 拓也

IUPAC International Symposium on Advanced Polymers for Emerging Technologies

Commemorating the 30th Anniversary of the Polymer Society of Korea

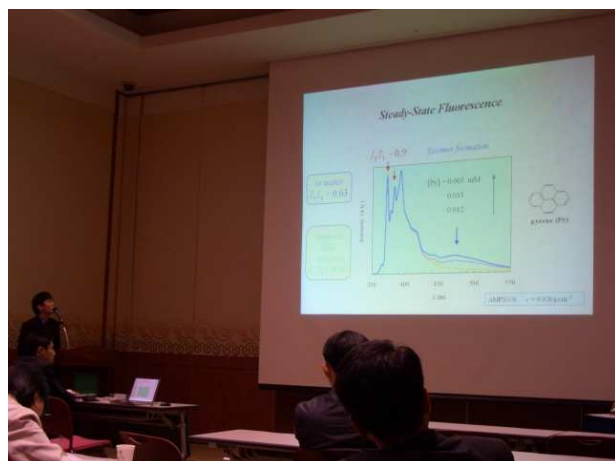
Oct. 10~13, 2006 BEXCO, Busan, Korea

昨年度から始まった高分子科学専攻の「インタラクティブ大学院教育」の一環である国際学会発表海外派遣支援プログラムにより、韓国で開催された IUPAC International Symposium on Advanced Polymers for Emerging Technologies に参加させていただきました。韓国高分子学会 (PSK) の 30 周年記念ということもあり、学会の規模はとても大きなもので、また世界中から多数の著名な先生方が招待講演者として来られており、その講演を聴くだけでも非常に意義のある学会であったと思われます。

今回、私は『Micellization of Amphiphilic Random Copolymers in Mixtures of Water and Methanol』というテーマでオーラル発表を行ってきました。海外での国際学会参加は今回が初めてであり、発表形式がオーラルということもあって、発表前はかなりプレッシャーを感じていました。緊張の中、何とか発表を終わらせたのですが、自分の経験不足、英語での質疑応答の不十分さを痛感させられました。ただ、この学会発表を通じて、『今の自分に足りないものが何であるか』を客観的に考えさせられたことは大きな収穫だと思います。また、ポスター会場においては、自分が興味を持った研究をされている方に対して、積極的に英語でディスカッションするよう努めました。説明していただいたことすべてが理解でき、こちらが言いたいことすべてを伝えられたとは言えませんが、以前、短期留学でロシアを訪問した時より、その割合は間違いなく増えたと思います。

学会が開催された韓国の釜山という街は大阪から飛行機で二時間程度と近く、食べ物はどれもおいしく、また私たち外国人に対して親切な人が多く、私自身、初めて訪れる地である韓国を『旅』という観点からも楽しむことが出来たと思います。現地の人との会話は、英語であったり、日本語であったり、時には韓国語であったりしたのですが、曲がりなりにも意思疎通ができる喜びを何度も感じました。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせていただいたインタラクティブプログラムに深く感謝致します。



緊張の中、臨んだオーラル発表



港町釜山では新鮮な魚介類が市場に並ぶ